

『担い手たちの やる気が地域を一新』

ながさまい

“長狭米” とともに歩む

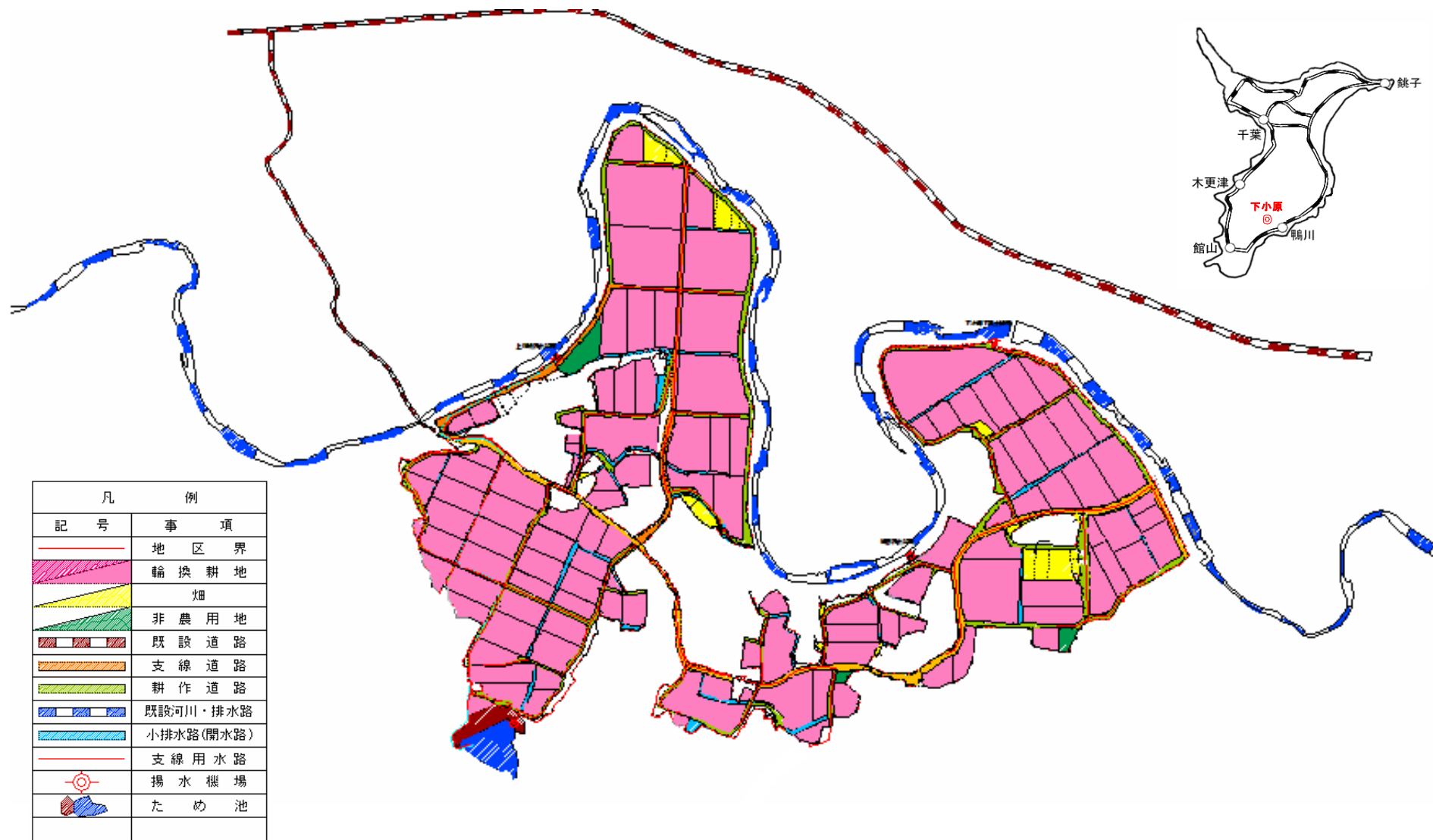


【 1.1ha の大区画水田に実る長狭米 】

経営体育成基盤整備事業
下小原地区（鴨川市）

安房農林振興センター

經營体育成基盤整備事業 下小原地区 計画平面図



1 鴨川市の概要

鴨川市は、千葉県南部、東南端に位置し、北は君津市・富津市、東は勝浦市・夷隅郡大多喜町、西は南房総市・安房郡鋸南町に接し、南は太平洋に面した、山と海に囲まれ自然が豊かでリゾートに適した地域です。

気候は、東南部が海に面しているため黒潮の影響を強く受け、年間降水量は1,884mm、年平均気温は15.8℃で年間を通じて温度差は少なく、真冬でも菜の花が咲く亜熱帯的な気候特性を有しています。

平成17年2月11日に、鴨川市と天津小湊町が合併して新鴨川市となり、総人口37,225人、15,002世帯ありますが、人口は年々減少傾向となっています。市の総面積191.30k㎡の内、農地面積は3,012ha



【 鴨川シーワールド 】

(内 水田2,360ha、畑652ha)で、全体の15.7%となっています。

観光名所は沢山あり代表格として、鴨川シーワールドと誕生寺が有名で、両方とも年間百万人近い観光客が、夏休みとお正月を中心に訪れています。

(1) 鴨川市の農業

農家数1,463戸の内、専業農家は350戸、兼業農家は1,113戸で、農業従事者は3,874人います。全経営耕地面積が1,496haあり、その内訳は水田1,331ha、畑143ha、樹園地22haで農作物の栽培がなされており、1戸当たりの経営面積は1.02haとなります。

平成17年度の農業産出額は約53億円で、上位から米、畜産、野菜の順となっており、千葉県下では第32位に位置し、田畑のほとんどは基盤整備が実施されており、ダム・ため池・河川の他天水を用水源としています。

なお、特定の地域においては、日本の米づくり百選（地域の伝統・文化を守り伝える米づくり）に選定された、千葉県を代表する良質ブランド米の「長狭米」が生産されています。

ながさ
長狭の地名は、『古事記』神武天皇の条に「神八井耳命ハ長狭国 造 等
ノ祖ナリ」とみられ、長狭郡名は、『続日本紀』養老2年（718年）5月
の条を初見と
しています。

昔の当地で
は、良質の麻
がとれたとこ
ろから長麻と
よばれ、これ
が長狭になっ
たとする伝承
もあります
が、地名は長
く狭い地形に
由来するもの
と考えられて
います。



【 長狭米のモニュメント 】

また、市内には、日本の棚田百選に千葉県で唯一選定されている「大山千



【 大山千枚田で田植え後の、松明イベント 】

枚田」があり
ます。3ha
の広さに約
400枚の
水田があり、
高低差は6
0mに及ん
でいます。

運営は、
大山千枚田
保存会を立
ち上げて、
棚田オーナ
ー制度を取
り入れ、都市
と農村の交
流拠点とな
っています。

2 導入された事業の概要

本地区は、基盤整備事業が全く行われたことのない未整備地域であったために、区画は小さく不整形で段差があり、農道は狭小で耕地の途中までしかなく、用水は幹線的な土水路が道路沿いにあるだけで、ほとんどが田越し用水となっていました。排水路は、地すべり対策事業での幹線排水路があるのみで、用水と同様に田越し排水であったことから湿田状態でした。

このような生産基盤であったために、乾田化が凶れず大型農作業機械の導入が困難であり、転作や裏作もほとんどできず、農作業と農業用施設の維持管理とに多大な労力と経費を費やしていました。

(1) 経営体育成基盤整備事業 下小原地区 (ハード事業)

ア 採択年度	平成12年度
イ 事業期間	平成12～17年度
ウ 受益面積	A=38.6ha (水田37.2ha、畑1.4ha)
エ 総事業費	8億3千万円
オ 負担割合	国50%、県35%、市10%、地元5%
カ 主要工事	整地工 38.6ha 道路工 9,670m 用水路工 9,083m 揚水機場 3箇所 排水路工 4,010m 暗渠排水工 32.9ha

(2) 経営体育成促進事業 下小原地区 (ソフト事業)

ア 事業名	土地利用調整推進事業
イ 採択年度	平成12年度
ウ 事業期間	平成12～17年度
エ 総事業費	468万円
オ 負担割合	国50%、県50%
カ 事業概要	受益面積 38.6 ha 実績集積面積 19.37 ha 実績集積率 50.2%

(3) 関連事業

ア 事業名	千葉ブランド「米・特産」産地整備事業
イ 実施年度	平成15年度
ウ 県補助金	9,061千円
エ 事業概要	乾燥施設 2台(50石) 乗用田植機(6条植)・コンバイン(4条刈)・ウイングハロー・グレンコンテナ・動力噴霧器 各1台

3 事業の成果

基盤整備事業を実施したことにより、不整形かつ小さかった水田が長方形の整形田に姿を変え、なかでも1枚の面積が1ha以上(100m×100m)の大区画水田が、平地部に7枚設置されました。

また、全ての耕地に接続する農道と排水路が整備され、用水はパイプライン方式と大幅に変化したことから、農作業面における作業効率が格段に向上するとともに、維持管理が大幅に容易になりました。



【 コンバイン (4条刈)の導入 】



さらには、水田に暗渠排水を施して乾田化を図り、大型農作業機械の導入が可能となり、輪換耕地での畑作物の栽培ができるようになりました。

地区内の転作作物では、カナリヤナスが定着しており、稲刈り終了

【 出荷間際の、横顔はまさに

フォックスフェイスのカナリヤナス 】

後の9～10月に

かけて、別名“フォックスフェイス”の名で主に生け花用として、出荷されています。

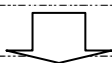
(1) 育成された担い手組織

基盤整備を行う前までは、転作組合や農作業機械の利用組合などの営農組織は一切設立されておらず、個々での営農が大半を占め、一部で貸し借りがなされている程度でした。

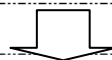
しかし、事業を契機に農家の営農意識が大きく変わり、個人経営ではなく営農組織による大規模経営が、農業で生き残る手法と認識され、次のような経緯で組織による担い手が育成されました。

ア 担い手組織等育成経緯

平成13年11月19日	「鴨川市下小原営農組合」設立				
(ア) 設立目的	・・・	「ほ場整備事業の実施により、農業生産の大規模な面的集積を促進し、担い手農家の育成に向け土地利用調整の推進を図り、生産性の高い農業経営の確立に資すること。」			
(イ) 組織体制	・・・	役員			
		組合長	1名	副組合長	1名
		庶務・会計	2名	監事	2名
(ウ) 営農体制	・・・	営農担当	2名	機械担当	3名
		オペレーター	2名		



平成15年 2月17日	営農組合のライスセンター用地を確保		
(ア) 用地面積	・・・	3,044㎡ (地区内創設非農用地)	



平成15年度			
(ア) ライスセンター建設	(17,000千円を借り入れて、営農組合 独自で設置)		
(イ) 千葉ブランド「米・特産」産地整備事業を導入			
(ウ) 営農組合としての農地利用集積(作業受託)を開始			



【 ライスセンター
内部・右側2台
が乾燥機(50
石・30ha対応) 】

平成18年1月11日 「農事組合法人下小原営農組合」設立

(ア) 設立目的・・・ 「組合員の農業生産についての協業を図ることにより、その生産性を向上させ、組合員の共同の利益を増進すること。」

(イ) 組織体制・・・ 代表理事 1名 理事 8名

(ウ) 営農体制・・・ オペレーター 2名

※ 同日に「鴨川市下小原営農組合」を解散。



平成19年 3月12日

ア 「農事組合法人下小原営農組合」が、鴨川市の認定農業者となる。

(2) 法人による農地の利用集積

区画整理工事は、平成13～15年度に実施され一時利用地指定後の平成15年度から、営農組合としての農地の利用集積がスタートしました。

なお、作業料金は、鴨川市農業委員会が定めた料金を基本にしています。

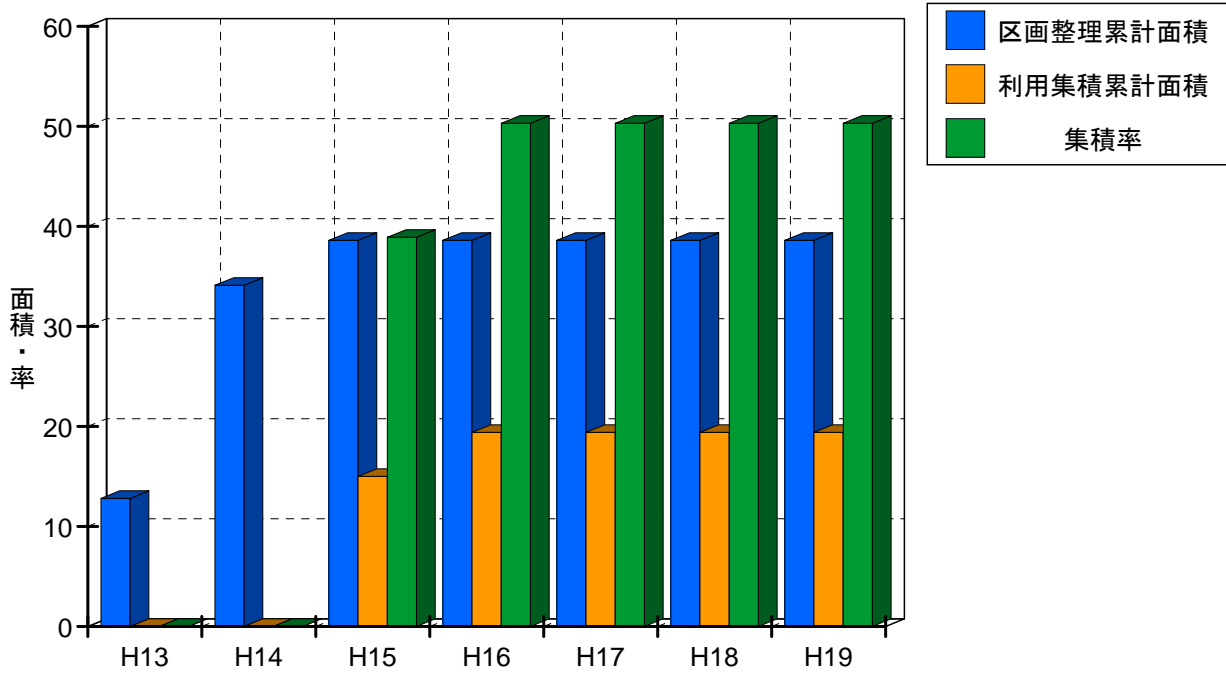
ア 区画整理と集積の進捗状況

(単位 : ha・%)

項 目	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
区画整理累計面積	12.8	34.1	38.6	38.6	38.6	38.6	38.6
利用集積累計面積	0.0	0.0	15.0	19.4	19.4	19.4	19.4
集 積 率	0.0	0.0	38.9	50.3	50.3	50.3	50.3

表示文字列
ha・%

区画整理・集積

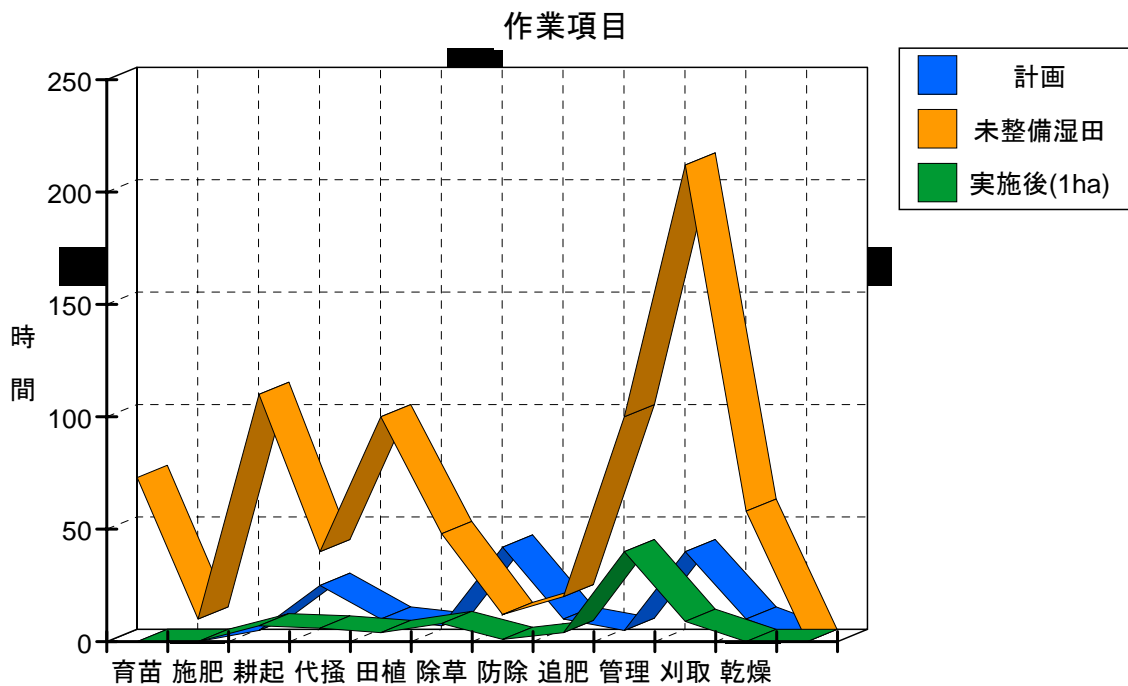


(3) 大幅な営農労力の節減

基盤整備事業の実施と法人の設立により、乾田化が図られ大型農作業機械を導入したことから、事業前と比較して大幅に営農労力が節減されました。個々に経営している農家も含めて、昔の苦労に比べて今日の楽さは夢のようだと感嘆しています。

ア 営農労力の節減状況

(単位 : hr)



イ 1 ha 当たりの作業別労働時間

(単位 : hr)

	育苗	施肥	耕起	代掻	田植	除草	防除	追肥	管理	刈取	乾燥
未整備湿田	73.0	10.0	110.0	40.0	100.0	48.0	12.0	20.0	100.0	212.0	58.0
計画 (1ha)	0.0	5.0	25.0	10.0	7.0	42.0	10.0	5.0	40.0	10.0	0.0
実施後(1ha)	0.0	0.0	7.0	6.0	4.0	8.0	1.0	4.0	40.0	9.0	0.0

〔解説〕

未整備湿田 : 下小原地区の基盤整備実施前を指します。

計画 (1ha) : 下小原地区における事業計画の数値です。

実施後(1ha) : 基盤整備実施後で、大区画水田における法人の作業日誌から導き出した数値です。

育 苗 : 種子予措及び育苗は、実施前は個々の農家で行っていましたが、実施後の集積された農地分は、法人が一括してライスセンターで作業しています。

施 肥 : 田植え前の水田に散布する肥料のことで、実施後は田植機(6条植)により田植えと同時に散布しています。

耕 起 : 稲刈り終了後と春先の2回にわたり、トラクター(42馬力)で水田を耕しています。

代 掻 : 2度耕された水田に水を張り、トラクターで土を砕いて水田を均定にして、田植えができるようにします。

田 植 : 田植機を使って、水を張った水田に育った苗を植えます。

除 草 : 畦畔や水田回りの道路・排水路の法面に生えた雑草を、草刈機を使って、同じ場所を年に3~4回刈ります。

防 除 : 病気や害虫から水稻を守るために、農薬を田植機と動力噴霧器を使って散布します。

追 肥 : 水稻の生育を確認しながら、肥料を散布します。

管 理 : 用水と排水の状況を確認するため、水稻の生育期間中はほぼ毎日水田を見て回ります。干天や降雨が続いた場合には、回数が増えることになります。

刈 取 : コンバイン(4条刈り)を使っての稲刈りと、籾の運搬時間も含んでいます。

乾 燥 : 集積された籾の乾燥と調整は、ライスセンターで行っています。

(4) 労力節減の効果

ア 営農時間の比較

各農作業に要する時間は、次のとおりです。

- ・未整備水田 : 1 ha 当たり延べ783時間
- ・計画(1ha) : 1 ha 当たり延べ159時間
- ・実施後(1ha) : 1 ha 当たり延べ79時間

営農時間だけを比較すると、未整備水田と基盤整備実施後の法人による作業時間では、ほぼ1/10に短縮されています。

これについては、人力が主であった作業が、大型農作業機械による作業が可能になったことによるものですが、経費面においては、ライスセンターの建設からトラクター、田植機、コンバインの購入など、莫大な設備投資がなされた結果に伴うものです。

イ 節減労力の活用

下小原地区においては、事業実施前の営農を各戸で夫婦が行っており、ほとんどが兼業であったため、職場を休んで農作業に従事していました。

事業実施後に農作業風景で変わったことの一つに、奥さん方の姿が見えなくなったと言われています。すなわち、農作業がご主人だけでできるように変化したことを意味しています。

また、数人の従来からの専業農家においては、事業実施後もそのまま専業農家を続けながら、個人で転作のカナリアナスや花とうがらしの他、裏作としてソラマメや切り花菜の花などに取り組み、余剰労力を有効に活用しています。



【 寒さの中でも元気に育つソラマメ（1月撮影） 】

4 今後の課題と改善方法

(1) 現在の課題

ア 受託内容

現在の受託内訳は、基幹作業委託が18.2haと大半を占め、利用権設定が1.2haしかない状況です。

イ 転作・裏作の対応

水稻の農作業受託がほとんどで、法人としての転作や裏作はなされておらず、農地の有効利用が図られていないのが現状です。法人が発足して日が浅いことから、まず、経営の安定を図るために、地域の特産品である「長狭米」のみを中心とした生産体制となっています。

ウ 施設整備に伴う借り入れ金の返却

法人による生産体制確立のために、ライスセンターの建設、各農作業機械の購入など、設備に多額の費用を借り入れて投資しました。

今後は、これらの返済が必要になることから、経営の安定化と規模拡大が課題となります。

(2) 今後の改善方法

ア 経営方針

今後は、基幹農作業の委託から利用権設定の増大に向かう方針です。

また、経営規模の拡大と農地の有効利用を図るために、従来から栽培されているカナリアナスやソラマメの拡大が必要不可欠です。

特に、カナリアナスは反収が多い反面、連作ができず候補地の選定を毎年しなければならないことから、地区内全域を網羅して地権者の理解をいただく必要があります。

イ 営農方針

今後しばらくは、「長狭米」を主体とした営農方針ですが、“千葉エコ”や“減農薬栽培”に取り組み、付加価値を付けた作物の生産を検討しています。

ウ 販路の拡大

現在、生産された「長狭米」は、農協や卸店に出荷するとともに、独自の顧客を対象とした販路としています。

ただ、「長狭米」の名称が県内においてですら広く消費者に浸透していないことから、各種のイベント等に参加して知名度を高める方針としています。

エ 特売品の製造

平成19年度においては、地区の近くに「じゅまんがめ寿萬亀」で知られる亀田酒造(株)があることから、地区内で採れた米を原料とした独自の日本酒の製造に取り組んでいます。

成果の程はまだ出ていませんが、酒米の栽培も含めて地元の老舗とタイアップした商品の開発を、試行錯誤していきます。

5 その他

(1) 調査協力機関

- ア 農事組合法人 下小原営農組合
- イ 鴨川市主基土地改良区 下小原工区
- ウ 鴨川市 建設経済部 農林水産課

(2) 参考図書等

- ア 2005年農
林業センサス
- イ 鴨川市統計書
平成18年版
- ウ 鴨川市史
通史編



【 経営体育成基盤整備事業の竣工記念碑 】

あ と が き

本地区は、主傾斜が1／30と急峻で、約2／3が地すべり防止区域の指定を受けており、また、地区に接続する幹線道路がないため大型車の進入が困難など、基盤整備の実施や担い手の育成に関しては、必ずしも条件が整っているとは言えない状況にありました。

しかしながら、工区長や法人の代表理事を初めとした、事業や営農に前向きな方々の努力と苦心により、想像もできなかった今日の姿ができあがりました。

まだまだ、歩み始めたばかりではありますが、面積A＝38.6haと小さな地区ではあっても、地域の人たちのやる気さえあれば、景観や作業体系が一変することをご周知いただければ幸いです。